



2019年10月3日

各 位

会 社 名 株式会社放電精密加工研究所  
 代 表 者 名 代表取締役社長 工藤 紀雄  
 (コード番号 6469)  
 問合せ先責任者  
 役職・氏名 常務取締役管理部長  
 大村 亮  
 電 話 046-250-3951

2020年2月期第2四半期個別業績予想値と実績との差異に関するお知らせ

2019年7月2日に公表いたしました2020年2月期第2四半期累計期間(2019年3月1日～2019年8月31日)の業績予想について、下記のとおり実績との差異についてお知らせいたします。

## 記

## 1. 業績予想値と実績との差異

2020年2月期 第2四半期個別業績予想と実績の差異等

(2019年3月1日～2019年8月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	5,294	△81	△78	269	37.22
実績 (B)	5,086	△174	△164	217	30.06
増減額 (B-A)	△208	△93	△85	△51	
増減率 (%)	△3.9%	—	—	△19.2%	
(ご参考) 前期実績※ (2019年2月期第2四半期)	—	—	—	—	—

※前期は個別開示を行っていないため、記載を省略しております。

## 2. 第2四半期個別業績予想値と実績値との差異の理由

売上高につきましては、セグメント別の内訳として放電加工・表面処理事業が44百万円、金型事業が108百万円及び機械装置等事業が54百万円の減収のため、全体で208百万円の減収となりました。放電加工・表面処理事業では航空宇宙関連の航空機エンジン部品の圧縮機・燃焼器部品が前工程の遅れなどにより減収となりました。金型事業は特に住宅及び産業品関連のアルミ押出用金型の受注が低調で減収となりました。機械装置等事業は機械関連のプレス金型の受注が低調で減収となりました。

営業利益につきましては、放電加工・表面処理事業が 112 百万円及び金型事業が 69 百万円の減益となりましたが、機械装置等事業が 5 百万円の損失の圧縮及び報告セグメントに帰属しない一般管理費が 83 百万円の支出を抑えたことなどから、93 百万円の減益となりました。放電加工・表面処理事業は、主に産業用ガスタービンの新規アイテムの立上費用が予想よりも増加したことにより減益となりました。金型事業はアルミ押出用金型の減収の影響により減益となりました。

当期純利益につきましては、営業利益の減少により 51 百万円の減益となりました。

2020 年 2 月期の業績予想につきましては、2019 年 7 月 2 日に公表いたしました予想に変更ありません。

なお、上記予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上